



社会福祉法人 木の芽福祉会

2022年度 各事業計画

御影俱樂部 多機能型	就労継続支援事業B型 御影俱樂部
	就労移行支援事業 エム・ワークス
	就労定着支援事業 エム・ライズ
	自立訓練(生活訓練)事業 リチェルカ

咲くら工房 一体型	就労継続支援事業B型 咲くら工房
	就労継続支援事業B型 六甲俱樂部

就労継続支援事業B型 ひらめの家

地域支援活動 センター	わかば：東灘区
	あんず：灘区

法人本部事務

事業所・管理者名	事業所	御影倶楽部	管理者	宇野 大典	
事業名称	就労継続支援B型				
2021年度 総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響が続き不安のため通所が困難な利用者はいたが、在宅での作業を提供することで以前よりも働く時間や工賃が増えて生活リズムが安定した利用者もいた。下請けは常時複数あり、紙漉きは咲くらや六甲倶楽部と協働で商品作りができて工賃もほぼ前年度並みを確保できた。Zoomを活用して、在宅の利用者との交流や離れた場所をつないだイベントが開催できた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、レクやイベントがほとんど持てなかった。仕事以外の交流の機会が減ったためメンバー間の相互理解の促進もできなかった。 ・ケース検討会など、職員の支援力を高める学びの場が持てなかった。 ・個別の家族対応はあったが職員と家族で顔の見える関係を築くための家族会が開催できなかった。 			
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの一人ひとりにあった作業、安心して働ける環境、豊かな人間関係、仕事以外の楽しみの機会を作り出す。 ・多様な障害特性や生活環境を持ったメンバーを支援するため、職員は学びや話し合いを積極的に行う。 			
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○メンバーの仕事 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーそれぞれの障害特性や得意なこと、好きなことを活かすことができるよう、下請け・清掃・紙漉きと多様な仕事のメニューを常に確保する。メンバー特性に合わせるため仕事量や内容の見直しも検討する。 ・引き続き在宅就労を希望する利用者のニーズに応える作業を提供する。 ・コロナ禍でも安心して通所し作業ができるよう、環境を整える。 ○職員の学び・向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会の開催や外部研修への参加等を通して、職員の支援力を高める。 ・法人内外の事業所とこまめに連携や情報共有し、一体的な支援や協働での作業・自主製品作りを進める。 ○仕事以外の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策をした上で、定期的なレク開催や地域イベントへの参加を行いメンバーの仕事以外の楽しみや相互理解の機会を持つ。 ・新しい利用者を増やすため、地域のクリニックや関係機関を訪問する。 ・ご家族や、休みがちな利用者にも御影倶楽部の様子が伝わる発信をする。 			
	2023年度イメージ	様々な障害特性をもった利用者が増え、一人ひとりにあった仕事があり、職員やメンバー同士の関わりを通して成長しあえる場。			
	利用対象者	精神障害、知的障害、身体障害			
	利用定員	32名			
	利用者数	2021予測	5224名(@435)	2022目標	5260名(@438)
	開所日・時間	営業日・時間 月～金 9:00～17:00 (サービス提供時間 9:30～15:30)			
	土日祝対応	月1～2日開所 (イベント開催等による)			
職員体制	管理者兼サビ管1名、常勤4名				

事業所・管理者名		事業所	エム・ワークス	管理者	宇野 大典
事業名称		就労移行支援			
2021年度 総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続きコロナ禍の状況が続き就職率が低く、逆に安定的にメンバー7名で活動することができた。 ・安定してメンバーが在籍することにより様々な作業を経験することができた。 ・パソコン教室や就労セミナー等最低限の外部講師プログラムを行うことができた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で満足な就職活動ができず、年度で就職者が2名と低迷した。 ・メンバーが年初で1名と年中に1名の2人の受け入れに留まった。各支援機関との相談件数も相変わらず減少している。 ・作業量が増加して関わる活動が増えて、就職に向けてのプログラムが満足に行えなかった。 			
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に向けてのプログラムや作業経験の強化 ・利用者本人およびご家族との引き続きの連携強化 ・法人内職員の交流(B型職員⇄移行・定着・自立訓練職員) ・引き続き、事業内容を広く知らしめる広報活動の強化(メンバー募集活動) ・学校関係との情報共有(体験会や見学会の定期的な実施) ・複数職員の入れ替わりが発生するので円滑な引継ぎを行う。 			
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが、いつ終息するかが全く見えない。昨年末に一時終息したかに見えたが、本年に入り再度オミクロン株の大流行で感染拡大が続いている。ピークアウトしても再度新たな株が発生すると思われる。終息の有無にかかわらず企業との連携強化が最優先課題となる。 ・メンバー本人の要望に合った求人票がいつ出るかわからないので、プログラムや作業経験を強化して就職準備を整えておく。 ・本年4月に3名の新メンバーが登録となる。3名共に支援学校の卒業生なので、引き続きご家族との連携を強化していく。 ・就労継続支援と就労移行支援の職員同士の交流が全くない。支援内容は異なるが、法人内職員が誰でも双方の支援が行えるように交流を実施していく。 ・メンバーの受け入れが新年度の4月のみになってしまい、年度半ばでの受け入れが全くない。学校関係以外のメンバー募集活動を強化し、広くエム・ワークスの活動を世間に知らしめていく。 			
	2023年度イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・リチェルカが2年目を迎える。連携を視野に入れていく。 ・新規メンバーの登録が厳しくなってくることが予想される。 ・作業一辺倒の活動からの脱却が必要になる(メンバーの減少に備えて)。 			
	利用対象者	精神障害、知的障害、発達障害、身体障害			
	利用定員	8名			
	利用者数	2021予測	1445名(@120)	2022目標	1350名(@112)
	開所日・時間	営業日・時間 月～金 9:00～17:00 (サービス提供時間 9:00～16:00)			
土日祝対応	なし				
職員体制	兼務サビ管1名、常勤3名(期中に変更の可能性あり)				

事業所・管理者名	事業所	エム・ライズ	管理者	宇野 大典	
事業名称	就労定着支援				
2021年度 総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で厳しい就職活動の中、エム・ワークスで2名の就職者があった。本年は2名の新規登録者があったが、支援期間が終了された方が3名おられ7名での活動となった。 ・7名のメンバー、および支援機関が終了したメンバーも含めて退職された方はおられず就労定着が実現できている。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが昨年末一時終息したものの本年に入り再度オミクロン株が流行している。企業への訪問活動が中々実現できていない。電話での対応が多くあった。 ・相変わらず活動は終業後になっている。職員の終業時間外の負担が変わらず発生している。 			
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のメンバーとのコミュニケーションの継続強化 ・コロナの状況を見ながら企業担当との面談を増やしていく。 ・メンバー増に向けて募集活動を活発に行う(関係機関への働きかけ)。 			
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問および本人面談がどうしても16:00~17:00以降になる。本人の終業時間や勤め先の繁忙期と閑散期の情報を把握して効率的な活動を実現する。 ・事業がスタートして3年になる。制度上、入社日から3年の支援なので本年も2名の方の支援終了が見込まれる。その後の支援が必要な方で本人が望まれる場合は「しごとサポート東部」への引継ぎを行う。 ・現在は全メンバーが順調に就業定着定着が進んでいるが、今後に備えて仕事や人間関係の悩みで退職を相談されたときの支援マニュアルを作成する。 ・コロナの状況をよく見ながらではあるが、企業訪問を実現して本人の様子を聞き取る機会を増やしていく。 ・コロナ禍で休日に自宅で過ごす方も多く、支援の中でストレスの発散方法が掴めない方が多く居る。ストレスコーピングについても伝え、支援していく。 ・今後も続くであろうコロナ感染対策の強化を行う。 			
	2023年度イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・3年経過した中での運営上の問題点を洗い出しスムーズな支援を実現する。 ・エムワークスとの連携でメンバー減を食い止める方策を考案する。 ・安定的なメンバー確保を実現する。 			
	利用対象者	精神障害、知的障害、発達障害、身体障害			
	利用定員	なし			
	利用者数	2021予測	月7名	2022目標	月7名
	開所日・時間	月最底1日以上(不定期) 主に本人の勤務終了後			
	土日祝対応	なし			
	職員体制	兼務サビ管1名、常勤2名(内2名が就労移行支援と兼務)			

事業所・管理者名		事業所	リチエルカ	管理者	宇野 大典
事業名称		自立訓練(生活訓練)			
2021年度 総括	成果	事業開始に向けての準備期間			
	課題				
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりへの支援だけでなく、保護者の方との面談も行き、「自分らしい生き方」を見つけるサポートする。 2年目に向けた利用者を獲得していく。 			
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者支援 <ul style="list-style-type: none"> 訓練を通して、自己決定ができるようになるための経験を積んでもらう。 一人ひとりの自立について考えてもらう。 ②プログラム <ul style="list-style-type: none"> 各プログラムのねらいを確立させていく。 プログラム充実のために外部講師を含め、地域と繋がる場を作っていく。 ③職員 <ul style="list-style-type: none"> 支援力向上のために研修に参加していく。 他事業所等を見学、訪問し視野を広げる。 ④関係機関 <ul style="list-style-type: none"> 広く知ってもらうために、関係機関への広報活動を継続していく。 他機関との繋がりを作っていく。 			
	2023年度 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 2期生が加わることになるので、より活発な活動を目指す。 活動内容等を広く知ってもらい、よりたくさんの方に興味を持ってもらう。 1期生の進路決定に向けての活動を行っていく。 			
	利用対象者	知的障害、発達障害			
	利用定員	6名×2年=12名			
	利用者数	2021予測	—	2022目標	6名
	開所日・時間	営業日・時間 月～金 9:00～17:00 (サービス提供時間 9:30～15:30)			
土日祝対応	イベント等への参加で土日祝も開所日あり				
職員体制	管理者兼サビ管1名、常勤2名				

事業所・管理者名	事業所	咲くら工房	管理者	葛目 昌子	
事業名称	就労継続支援B型（一体型・主）				
2021年度総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当作業での材料費やガソリン代高騰により、経費削減と工賃アップの視点から弁当容器の見直しと副菜1品減により利益を保った。 ・募金百貨店（東灘社協の歳末助け合い募金に売り上げの一部を寄付）に初めて参加することができつながりを得られた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・登録利用者の退所が続き、また長期欠席者も増え給付金収入が激減した（コロナ禍も要因の一つ）。 ・新規利用がなく、利用者の減少に歯止めがかからない。 ・余暇活動の在り方の見直し。 			
2022年度事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当作業、軽作業の工賃を底上げする。 ・一体型として六甲倶楽部との連携を強化する（作業、余暇活動）。 			
	取組内容	<p>①事業運営 六甲との連携強化。仕事だけでなく余暇活動も茶話会・勉強会（病気の症状・生活状況別等のディスカッション）・外出レク等を一緒にして楽しみを増やす。</p> <p>②作業 弁当の工賃を上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・作業内容により5万円以上の工賃が支給できる。 ・インスタを開始し、外部へ発信・アピールしていく。 下請け作業の工賃を上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・支援計画通りに通所出来た人は月単位で皆勤手当を出す。 ・六甲と仕事を共有して一体型として受ける。 ・利用者間で作業を協力することにより、双方の施設を応援の形で行き来出来るようにする（人間関係を広める意味も含む）。 </p> <p>③地域とのつながり 募金百貨店への参加を継続する。</p> <p>④新規利用者を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・青陽灘支援や芦屋特別支援学校の実習生を進んで受け入れ、先生との接点を大切にして積極的に利用者募集を発信する。 ・リニューアルしたパンフレットを使用しアプローチチャンスを逃がさず配布を行う。 </p>			
	2023年度イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・経営悪化を止め、上向き経営に向かう。 ・法人全体による咲くらPJにより今後の在り方を検討する。 			
	利用対象者	精神障害、知的障害、身体障害			
	利用定員	20名			
	利用者数	2021予測	3194名(@266)	2022目標	3132名(@261)
	開所日・時間	営業日・時間 月～金 9：00～17：00（サービス提供時間 8:30～16:00）			
	土日祝対応	（土）月一回開所、祝日開所			
職員体制	管理者1名、サビ管1名、常勤2名、非常勤1名				

事業所・管理者名	事業所	六甲倶楽部	管理者	葛目 昌子	
事業名称		就労継続支援事業B型(一体型・従)			
2021年度 総括	成果	<p>例年夏季の3カ月全く来所できない利用者と定期的にやりとりをし、在宅支援を導入して繋がり続けることができた。菓子作業では「ささえる会物販」で大きな売り上げがあった。クリスマスにはギフトボックスを独自に販売して関係機関から沢山の注文があった。下請け作業は御影倶楽部の製品づくりで利用者それぞれが得意なことを活かした作業を進めることができた。</p>			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 卒業した利用者(A型への移籍・加齢による介護施設利用)が複数いるが新規利用者はほとんど増えなかった レクリエーションの機会がコロナ禍で少なく仕事とのメリハリが作れなかった 			
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容(お菓子づくりだけではなく、特技を活かした軽作業も併設)や環境(女性が多く、静かなワンフロア)の特色から新規利用者獲得をする。パンフレットが新しくなるので、関係機関に営業に行く。 咲くら工房との利用者間の交流を活性化させる 			
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○全体 SNSを定期的に更新し、活動内容をリアルタイムで発信する。加齢により、身体的な課題を抱える利用者も目立ってきたため、本人だけではなく家族や主治医、関係機関との連携を行う。 ○お菓子 ささえる会だけではなく、季節ごとにギフトボックス販売を行う。以前全体会で意見のあった「木の芽福祉会ギフトボックス」について改めて検討。 ○下請け それぞれの得意なことに応じた作業提供を行う。複数の作業を常に選べるようにする。 			
	2023年度イメージ	お菓子作業と下請け作業を両立しながら、それぞれが選べるようにする。			
	利用対象者	精神障害者・知的障害者・身体障害者			
	利用定員	10名			
	利用者数	2021予測	2,203名(@183)	2022目標	2,195名(@182)
	開所日・時間	営業日・時間 月～金 9:00～17:00 (サービス提供時間 8:30～16:00)			
	土日祝対応	なし			
	職員体制	管理者(兼務)・サビ管1名(兼務)・常勤1名・非常勤1名			

事業所・管理者名	事業所	ひらめの家	管理者	熊野 いく子	
事業名称	就労継続支援B型				
2021年度 総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・移転を機に店舗を構え、オープンな雰囲気が出たことで通りがかりの人々や関係者との交流が増え、事業所全体が活性化された。 ・取引先や関係機関との信用構築に努めてきたことが実を結び、受注が増加した。 ・以上のようなことが商品作りへの意欲や自己肯定感を高め、自主性のある利用者が増えた。結果的にひらめの家に利用者を引きつける魅力になったと考える。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加に伴い、現在の職員体制では十分な安全管理が難しい。 ・利用者のスキルが多様であり、特に細かな作業が困難な利用者のための仕事を常に確保するのが難しい。 			
2022年度 事業計画案	基本方針	利用者それぞれの働き方・価値観の違いを互いに尊重し、主体性をもって高め合える土壌づくり、楽しく温かい雰囲気を守るため運営の仕組みを柔軟に工夫し常に化する状況に対応していく。			
	取組内容	<p>～「染めを極める」「止まったらダメ！常に探究する”ひらめ研究所”となる」～</p> <p>①染め：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の得意分野を活かしスキルを高める。失敗を恐れない、失敗する機会を奪わない支援。「私もスペシャリストを目指したい」「ワークショップの先生になりたい」「新しい商品を作りたい」…etc.というような利用者の声に応じていく。 ・企画し実験を重ねて新しいものを創ろうとする、利用者のアーティストとしての活動を積極的に応援する。 ・ベンガラに限定せず、植物染料など天然由来の染めを探究する。 <p>②下請け作業：</p> <p>これまでの取引先との信用を維持し、利用者のスキルに応じて新しい仕事も積極的に受けていく。</p> <p>③地域交流・地域連携：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップや畑づくりによって地域交流の機会を作る。 ・レクリエーションとして取り組んでいる音楽活動によって地域交流を図り、音楽アーティストとしての利用者の活動を支援していく。 ・他の事業所の強みを積極的に学び、取り入れる。 ・利用者の個別の生活課題を丁寧にすくい上げ、関係機関と連携して支えていく。 			
	2023年度イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授産活動の中で利用者が自主的に運営する比重がさらに大きくなっている。 ・地域交流が活発になり売り上げが増える。 			
	利用対象者	精神・発達・知的・身体			
	利用定員	20名			
	利用者数	2021予測	3020名(@251)	2022目標	3402名(@283)
	開所日・時間	営業日・時間 月～金 9：00～17：00 (サービス提供時間 9:30～15:00)			
	土日祝対応	イベント等			
職員体制	管理者兼サビ管1、職業指導員2（1名は目標工賃達成指導員）、生活支援員1				

事業所・管理者名	事業所	地域活動支援センターわかば	管理者	松田 里佳子	
事業名称	地域活動支援センター（センター型）				
2021年度 総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの感染予防に努めながらプログラムのアート活動（コラージュ、墨、塗り絵など）を継続し、集大成としてHUG+展にグループ作品を出品できた。 ・ボランティアによるプログラムの継続や再開と、新規プログラムの開始ができた。 ・昨年度に引き続き家族からの相談と連携の機会を多く持つことができた。 ・年度途中で職員体制の変化があったが、皆で協力して乗りきることができた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・精神以外の疾病で来所が難しくなるケースが多かったため、生活習慣病予防や生活環境について地域活動支援センターで出来ることを考える。 ・コロナウィルスの影響だけでなく、駅から遠いという立地を理由に定期的な来所に繋がりにくい利用者への対応を考える。 ・コロナウィルスの影響で中断している「家族サロン」の再開。 			
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者だけでなく家族にとっても安心できる相談場所となる。 ・利用に繋がりにくかったケースへの対応方法を考えて新規利用者を増やす。 ・個別支援と集団支援を意識して運営する。 			
	取組内容	<p>①居場所 本人や家族にとって安心できる居場所、様々な経験や交流・学びを通して自身や他者に対する理解を深める場所となるよう工夫をする。また、来所機会の少ない利用者や地域の中でまだ繋がっていない対象者が通いやすい社会資源となる方法を考える。</p> <p>②プログラム 集団的支援と個別的支援のバランスを考慮しながら、利用者のニーズや効果に沿ったプログラム構成を利用者と一緒に考える。来所機会の少ない利用者が参加しやすい内容や方法を工夫すると共にヨガ教室以外にも地域と繋がるプログラムを考える。</p> <p>③相談支援 本人や家族にとって安心して相談できる場所となるため、職員は研修などに積極的に参加してスキルアップを図る。また、ケース会議への参加や通院同行・自宅訪問などを通して、関係機関と連携して質の高い支援を目指し、昨年度に引き続き家族支援の重要性に目を向ける。</p>			
	2023年度イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で延期していた企画の定例化：出張わかば（月1回）、家族サロン（年4回） ・職員体制が安定して新規利用者獲得に向けた取り組みを開始。 			
	利用対象者	精神障害（発達障害含む）、知的障害、身体障害			
	利用定員	20名			
	利用者数	2021予測	1,680名(@140)	2022目標	1,800名(@150)
	開所日・時間	月・火・水(第2/第4)・木・金・日(隔週10:00~16:00)、火(月1回)…13:00~19:00			
	土日祝対応	日曜日（隔週）開所			
職員体制	常勤2名、非常勤1名				

事業所・管理者名	事業所	地域活動支援センターあんず	管理者	松田 里佳子	
事業名称	地域活動支援センター（センター型）				
2021年度 総括	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により様々な制約がある中でも利用者にとっての居場所として、またチャレンジの場としての機能を維持できた。 ・利用者同士の相互作用が就労や社会参加を促進する流れが続いている。 ・法人内他事業所との協働作業や交流の機会を持つことができた。 ・年度途中で職員体制の変化があったが、皆で協力して乗りきることができた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患だけでなく、その他内科的疾患等のある利用者に対して地域活動支援センターとしてできることや他業種との連携のあり方を考える。 ・コロナ禍で音楽活動やその他の活動が制限される中でも、可能な方法を模索して地域交流の場を確保する。 ・職員の異動等の環境変化に影響を受けやすい利用者のフォローと支援に努める。 			
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の制約がある中でも常に創意工夫を重ね、利用者のリカバリーとQOLの向上と社会参加を支援する。 ・障害者理解のための普及啓発及び地域交流を活発に行う。 ・相談支援の専門職として最新の調査研究内容などの情報を得て職員間で共有する。 			
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①創作的活動、生産活動の機会の提供、その他地域の実情に応じた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりや芸術活動等のプログラムを通してADLやソーシャルスキルの向上を促し、職員も共に学び合う。 ・「悩み分かち合い会」のような利用者主体の企画を支援する。 ②利用者に対する相談支援 <ul style="list-style-type: none"> ・面談や訪問などの個別支援を行い、生活上の課題を丁寧にアセスメントして必要に応じて他機関と連携する。 ③自立した日常生活及び社会生活を営むために必要な支援 <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援については関係機関と連携を行い、利用者同士の刺激がプラスに作用するように側面から支援する。 ④障害者理解のための普及啓発及び地域交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・通信やSNS、可能な範囲でのイベント参加など広報活動の充実 ⑤障害者福祉推進のための地域の実情に応じた創意工夫に基づく事業 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会やほっとかへんネット灘など地域の社会資源と連携する。 			
	2023年度イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でできなかった音楽活動やイベントなどを通して、地域との交流を深める。 ・利用者主体のプログラムや企画が定例化している。 			
	利用対象者	精神障害（発達障害含む）、知的障害、身体障害			
	利用定員	20名			
	利用者数	2021予測	2,280名(@190)	2022目標	2,350名(@195)
	開所日・時間	月・火・水（第2/第4）・木・金・土（隔週）…10:00~16:00			
	土日祝対応	土曜日（隔週）開所			
職員体制	常勤2名、非常勤1名				

事業所・管理者名	事業所	本部事務	管理者	前田 直子
事業名称		会計 その他		
2021年度 総括	成果	<p>本部事務部門の体制作りが進み、スムーズに業務を遂行できている。今後は各事業所運営の細部をさらに注視し、改善提案等できるよう役割を強化していきたい。</p> <p>①事務書式の改善及び有給休暇年間5日以上取得状況の確認作業の徹底 →事務書式は必要に応じて改善している。また令和4年度より、職員個別の有給管理表を導入し、各人でも確認・管理できるようにする。</p> <p>②固定資産や備品の管理 →進めているが書式に落とし込むまでには至っていない。</p> <p>③法人ホームページのリニューアル →11月にリニューアルを実施した。また全事業所の携帯電話をスマートフォンに変更し、各事業所からもSNS等発信ができる環境を整えICT化を進めている。</p> <p>④各事業就労会計予算の提案方法の検討 →12月に第1回就労事業勉強会を実施し、決算内容の説明や日頃の悩みなどを出し合い共有できた。今後も継続していく。</p> <p>⑤税務や総務におけるネット申請体制の構築 →総務（社会・労働保険）分野ではネット申請ができる環境となった。引き続き税務分野においても検討を進め、時間短縮やコスト削減を実現していく。</p>		
	課題	<p>固定資産や備品の管理は、まとまった時間が必要となるので目標値まで進めることができなかった。また就労事業については各事業所から予算提案ができる基礎づくりが次回勉強会の課題と考えている。</p>		
2022年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・中期的な法人運営安定化のため、経営会議へ改善提案をしていく。 ・事業所間のバランスを大切にして、法人全体がまとまり良く運営できるよう働きかけていく。 		
	取組内容	<p>①経営会議での会計月次報告については、問題点が端的に伝わる書式を作成する。</p> <p>②固定資産や備品管理の実施を行い、一品一葉書式に落とし込む。</p> <p>③新規事業実施に伴う様々な事案の発生に臨機応変に対応する。 また、各種情報収集や諸提案に関し職員への周知・共有を行う。</p> <p>④新ホームページのアクセス解析を行い、法人や事業所の広報活動を改善・強化し、本部からも利用者増への働きかけを行う。</p>		
	2023年度イメージ	法人方針の方向性に沿った提案が出来るよう、常に必要な情報を先取りしていく。		
	職員体制	前田、木村		